

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	人間関係論（カウンセリング含む）		科目ナンバリング	K01X22002
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

対人援助専門職について、特に医療現場で働く看護師にとって不可欠なコミュニケーションでの留意点について、事例を通して、体験を通し学びを進めていく。各自の積極的な授業参加が期待される。

《テキスト》

長谷川 浩編 系統看護学講座 基礎「人間関係論」医学書院 2015

《参考図書》

岡堂哲雄編 人間関係論入門 金子書房 2000

《授業の到達目標》

自分という人間の理解をはじめとし、コミュニケーションの重要性に気づけるようになる。特にこの授業の目標は、療養を余儀なくされている患者、それを支える家族の心理状態が理解でき、それにより添える基礎的な知識と技術が身に着けられ、人間関係の形成が可能になるようにスキルを身につけることにおかれている。

《授業時間外学習》

コミュニケーションの勉強のフィールドは、諸君の生活域である。常に人々のコミュニケーションの在り方、話の継続のさせかたなど、周りの人々の行動観察から学びを深めていくこと。言葉の数、表現方法のレパートリーを増やすことに取り組んでください。

《成績評価の方法》

出席、授業中の関与度（30%）、小テスト、課題提出（20%）  
 定期試験（50%）  
 提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

人間関係を学ぶ学生として、時間には遅れない、授業中の私語は慎む、ことを心に留め、積極的に授業にかかわってください。また携帯の操作も禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションの基礎	人のかかわりの本質、情報交換としてのコミュニケーションの類型とその特質について検討する。
2	援助的コミュニケーションの特性	援助を必要としている人、問題を抱えてはいるが、それに気づいていない人たちへの支援の在り方、そこでのコミュニケーションの特質について検討する。
3	カウンセリングの原則とコミュニケーション	対人援助専門職が必要とされる価値、倫理を中心に検討し、対人援助専門職としての態度形成を図る。
4	対人援助の諸理論	自我心理学、学習心理学、認知行動理論など対人援助に取り入れやすい諸理論について概観し、援助とは何かを考える。
5	保健医療チームのコミュニケーションの特質	患者の治療、療養の支援を目的に結成される保健医療チームにおけるコミュニケーションと、普段のコミュニケーションとの相違から、その特質を検討する。
6	リーダーシップとメンバーシップ	チームが成果を上げていくためには、それを取りまとめるリーダーと、そのリーダーを支えるメンバーの連携が不可欠である。ここではその在り様をけんとうする。
7	療養中の患者・家族とのコミュニケーションⅠ	患者と家族がどのように情報交換がなされているかは、療養状況の安定に大きく影響する。患者・家族それぞれの情報量の確認と修正を医療者がどのように行うかを検討する。
8	療養中の患者・家族とのコミュニケーションⅡ	医療者側と患者・家族のコミュニケーションの取り方、そこでの留意点について検討する。
9	ターミナルケアにおけるコミュニケーション	終末期の患者の心理、家族の心理を理解するとともに、専門職としての留意点について検討する。
10	患者を失った家族への支援	患者との死別を経験した、遺族の心理、それに伴う心理的な反応について理解し、支援の在り方について検討する。
11	支援の技術 その1 問題と課題を見つける	適切な支援を実施するためには、患者家族のおかれている状況、抱えている問題の質等を適切に把握する技術（アセスメント力）の確認と養成を行う。
12	支援の技術 その2 課題解決の方法を見つける	課題を解決するには、患者家族の能力と、おかれている状況、用いられる支援の内容を検討することが重要であり、そのため求められる視点について検討する。
13	支援の技術 その3 支援開始とフォローアップ	支援は状況変化を生み、かんじゃの・家族の新たな対応を求めることになる。両者の適応状況を確認しつつ支援を進めていく必要性について確認する。
14	患者・家族との面接演習Ⅰ、聴き取るとは	話を聴き取ることを、模擬面接という手法を通して体得するとともに、そのむつかしさについてもしっかりと自覚し、今後の学習に結び付けていく自覚を要請する。
15	患者・家族との面接演習Ⅱ、伝えるとは	考えを伝えることを、模擬面接という手法を通して体得するとともに、そのむつかしさについてもしっかりと自覚し、今後の学習に結び付けていく自覚を要請する。

《専門教育科目 専門基礎科目 I群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	保健医療福祉行政論		科目ナンバリング	K01B12006
担当者氏名	福川 京子、和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ◎ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

保健医療福祉の推進に必要な法制度、対策および行政機構・機能の概要と、公衆衛生看護の責務を学修する。

《テキスト》

保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）医学書院  
公衆衛生がみえる メディックメディア

《参考図書》

国民衛生の動向 厚生統計協会  
公衆衛生看護学概論（標準保健師講座1）医学書院  
公衆衛生看護学原論（公衆衛生看護学テキスト1）医歯薬出版株式会社

《授業の到達目標》

- ・保健医療福祉行政の根拠と目的は何か、また、これを実現するための法制度の変遷と課題、行政機構・機能と財政、計画策定・評価を理解できる。
- ・地域保健法に基づく行政機構・機能を理解できる。
- ・保健医療福祉の推進において、公衆衛生看護が果たす責務を理解できる。

《授業時間外学習》

法制度や行政機構等の知識は幅広く膨大だが、看護師・保健師・養護教諭のいずれの職種にも必要となる内容であるため、積極的に予習・復習に励むこと。

《成績評価の方法》

定期試験 100%  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉行政のめざすもの	保健医療福祉行政の根拠と目的について学ぶ
2	保健医療福祉制度の変遷	保健医療福祉制度の変遷について学ぶ
3	医療体制・対策	医療体制・対策について学ぶ
4	保健医療福祉の行政機構	保健医療福祉を推進する国・地方自治体の行政機構と機能について学ぶ
5	保健医療福祉行政と財政	保健医療福祉行政に必要な財政のしくみについて学ぶ
6	地域保健行政と保健師活動	地域保健法に基づく行政機構と機能、保健師活動について学ぶ
7	保健医療福祉の計画と評価	保健医療福祉を推進する諸計画とその策定・評価プロセスについて学ぶ
8	社会保障の理念・保健医療福祉活動の基本的方向	社会保障の定義、目的、範囲、体系等について学ぶ
9	社会保険制度1 社会保険の変遷	医療費の動向、医療供給システムについて学ぶ
10	社会保険制度2 医療保険制度	医療保険制度、医療制度改革について学ぶ
11	社会保険制度3 介護保険制度	介護保険の目的、しくみ、制度改正について学ぶ
12	社会保険制度4 年金制度、その他の制度	年金保険制度と労働保険制度（労働者災害補償保険・雇用保険）について学ぶ
13	社会福祉諸法の理念と概要	社会福祉の法制度、動向、実施体制、社会福祉制度形成史について学ぶ
14	社会福祉施策	児童福祉、老人福祉、生活保護、障害者福祉について学ぶ
15	保健医療福祉行政論のまとめ	これまでの学習内容の要点を整理する

科目名	公衆衛生学（疫学含）		科目ナンバリング	K01C12007
担当者氏名	長尾 光城			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《テキスト》

「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学」 医学書院  
 「シンプル衛生・公衆衛生学2015」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）  
 各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する。
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる。
- 3 疫学的な思考や手法を理解する。
- 4 主要な生活習慣病の疫学や危険因子を説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験70%、小テスト30%の割合で評価する。  
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

衛生統計を検討しながら、保健行政の在り方を自ら考える力をつけられるように頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生の概念・定義、歴史	公衆衛生学の概念、公衆衛生学がカバーする領域、公衆衛生の発展の歴史について理解する。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明できる。
3	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
5	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法（記述疫学、コホート調査、症例対照研究、介入研究等）の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができる。
6	感染症	感染症の感染経路、免疫、アウトブレイクの種類や疫学的調査、院内感染について説明できる。
7	感染症予防対策	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症法及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	予防・健康増進・生活習慣病対策	疾病予防の段階（一次～三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）、健康づくりの変遷について説明できる。
10	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
12	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について説明できる。
13	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について説明できる。
14	主要疾患の疫学と予防対策（その他）	メタボリックシンドローム、小児疾患、精神疾患、歯科疾患等の発生状況やリスク要因について説明できる。
15	医療制度、保険の種類、医療施設	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療保険給付制度について説明できる。

科目名	保健統計学		科目ナンバリング	K01C12008
担当者氏名	佐竹 邦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力</li> <li>○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力</li> <li>◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力</li> <li>○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力</li> <li>○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力</li> </ul>		

《授業の概要》

ナイチンゲールは統計データによってクリミア戦争での感染症被害の大きさを示し、衛生環境の重要性を指摘しました。統計学は、集団の現象の客観的な把握に役立ちます。現代では不可欠な知識です。

授業では統計のごく基礎的な内容を講義と演習により学びます。受講者の状態や他クラスの進度により、内容を多少変更することがあります。

《授業の到達目標》

- ・客観的に物事を見る姿勢の重要性に気付く。
- ・データの特徴を要約統計量で記述できる。
- ・データによって分析方法が異なることが分かる。
- ・統計的な方法を用いて、データに基づき事実を把握できるようになる。

《成績評価の方法》

受講態度 10%  
 提出物 20%  
 中間テスト 20%  
 定期試験 50%  
 フィードバック方法：オフィスアワー等に質問を受け付けます

《テキスト》

『やさしい保健統計学 改訂第5版』 縣 俊彦、南江堂、2013

《参考図書》

- ・『基本統計学 第4版』 宮川公男、有斐閣、2015
- ・『ナイチンゲールは統計学者だった!』 丸山健夫、日科技連、2008
- ・『活用事例でわかる 統計リテラシー』 noa出版、2014

このほか授業内で適宜紹介します。

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当範囲を読んで下さい。数式はすべてを追えなくても構いません。過去に学んだ用語を復習しながら読み進めて下さい。  
 復習：テキストを再度読み、練習問題を解き、理解を深めて下さい。

《備考》

- ・「コンピュータ演習」で学んだExcel操作は習得済みとして授業を進めます
- ・Excelのほか統計ツールや卓上電卓を使う可能性があります

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 統計ツールの基本操作(1)	保健統計の必要性 四則演算
2	統計ツールの基本操作(2)	合計、平均を求める 統計ツールの基本的な操作
3	尺度と度数分布	統計資料の尺度 度数分布表、度数分布図の作成
4	代表値	平均値、中央値、四分位数、最頻値 各代表値の特性
5	散布度	分散、標準偏差、四分位偏差
6	相関と回帰	相関、相関係数 回帰直線
7	確率・順列・組み合わせ	確率 順列、組み合わせ
8	中間テスト	これまでの学習内容の振り返り
9	確率分布	さまざまな確率分布
10	母集団統計値の推定(1)	母集団と標本、さまざまな抽出方法 母集団平均の推定
11	母集団統計値の推定(2)	母比率の推定、母相関係数の推定 標本設計、標本数（サンプル数）
12	仮説検定(1)	仮説検定 母集団が既知・未知それぞれの場合の母平均に対する検定
13	仮説検定(2)	対応のない2組の平均値の差の検定、 対応のある2組の平均値の差の検定、比率の差の検定
14	仮説検定(3)	適合度の検定、独立性の検定、 対応のある2標本の比較
15	まとめ	これまでの授業内容の補足

科目名	薬理学	科目ナンバリング	K02C12014
担当者氏名	兒玉 拓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

医薬品は化学物質であり、疾患の治療や予防に期待される作用と不必要な副作用や生命に関わる有害作用を示すことがある。本講義では、薬物療法の基本・薬物の作用メカニズム・薬物による副作用等を理解した後、感染症や免疫系・神経系等の種々の疾患治療薬についての作用のしくみ・特徴・使用時の注意点などを各論として学習し、看護の臨床現場で必要とされる薬理学的知識を教授する。

《授業の到達目標》

- ① 医薬品の適用方法や剤形などと関連付けて薬物の体内動態や医薬品の有効性と安全性の考え方が概説できる。
- ② 各種疾患に用いられる薬物を系統的に種別できるとともに、主な薬物の名称と薬効機序などが概説できる。
- ③ 薬物の副作用、使用方法、使用上の注意などを理解し、患者への対応を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（講義における質問への対応、課題への取り組み）なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

『看護学生のための薬理学ワークブック』 食見忠弘著（医学書院）

《参考図書》

『薬がみえる』 上田森生著（メディックメディア）

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬理学総論 1 薬物治療の基礎知識	薬物療法の目的、薬物の作用・副作用の仕組み、薬物の投与経路など。
2	薬理学総論 2 薬効に与える因子	薬物の体内動態、薬物耐性、薬物依存、薬効に対する影響因子など。
3	薬理学総論 3 薬の管理と治験	薬物の有益性と有害性、薬物管理の方法、新薬開発における薬効評価法など。
4	抗感染症薬	感染症治療における基礎知識、抗菌薬各論、感染症治療の問題点など。
5	抗腫瘍薬	癌治療の問題点、抗癌剤の種類と作用機序など。
6	免疫治療薬	免疫反応のメカニズム、免疫抑制薬、予防接種など。
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、非ステロイド性抗炎症薬など。
8	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬など。
9	中枢神経に作用する薬	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮静薬など。
10	心疾患治療薬	抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など。
11	メタボリック症候群治療薬	抗高血圧薬、血糖降下薬、インシュリン製剤、脂質異常症治療薬など。
12	物質代謝に作用する薬	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
13	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など。
14	皮膚科用薬・眼科用薬・漢方薬	皮膚感染症に用いる薬、アトピー性皮膚炎に用いる薬、白内障・緑内障に用いる薬、漢方薬など。
15	救急時使用薬・消毒薬	呼吸促進薬、循環改善薬、麻薬など。

科目名	免疫・微生物学	科目ナンバリング	K02C12015
担当者氏名	兒玉 拓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

グローバル社会の進展から種々の新興感染症の拡大が懸念されている。本講義では医療現場で身近に遭遇する感冒等の感染症から近年注目されているデング熱・鳥インフルエンザ等輸入感染症などトピックスを加えながら基礎的な感染症の知識と対策を理解する。また生体防御としての人間の免疫反応や過剰免疫であるアレルギー反応等についての知識も合わせて学習する。

《テキスト》

『ビジュアル微生物学』小田紘著（ヌーウェル ヒロカワ）

《参考図書》

『人体の正常構造と機能VII 血液・免疫・内分泌』（日本医事新報社）

《授業の到達目標》

①微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。②代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。③「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。④感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。⑤懸念される新興感染症についての知識を獲得する。

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《成績評価の方法》

定期試験70%、平常評価30%（講義における質問への対応、課題への取り組み）なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生体防御（1）	食細胞と自然免疫について理解する。
2	生体防御（2）	リンパ球と獲得免疫について理解する。
3	生体防御（3）	種々の免疫の異常やアレルギー疾患について理解する。
4	生体防御（4）	生体防御に重要なリンパ器官について理解する。
5	微生物学総論	細菌・真菌・原虫・ウイルス等の生物の特徴を理解する。
6	感染症とその診断法	感染源や感染経路、病原体分離診断法の基礎を理解する。
7	感染症の予防とコントロール	感染症に対する対策、治療法について理解する。
8	微生物学各論（1）	グラム陽性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
9	微生物学各論（2）	グラム陰性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
10	微生物学各論（3）	グラム陰性桿菌等の特徴と治療方法について理解する。
11	微生物学各論（4）	マイコプラズマ・リケッチア等の特徴と治療方法について理解する。
12	微生物学各論（5）	真菌・原虫・寄生虫等の特徴と治療方法について理解する。
13	微生物学各論（6）	飛沫感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
14	微生物学各論（7）	経口感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
15	微生物学各論（8）	血液感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。

科目名	臨床病理病態学 I（内科系）		科目ナンバリング	K03B12016
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

患者様の看護を行うためには、それぞれの疾患の病理と病態を理解する必要があります。  
形態機能論で学んだ正常な人間の構造と機能の理解の上に成り立つ分野です。

《テキスト》

系統看護学講座「腎・泌尿器」、「血液・造血器」、「アレルギー・膠原病・感染症」、「内分泌・代謝」、「脳・神経」（医学書院）

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

各疾患の病理、病態、診断、治療に関する知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内科学総論①	生命維持のしくみ
2	内科学総論②	バイタルサインのみかた、内科的検査・診断方法
3	腎臓・泌尿器疾患①	腎疾患の総論
4	腎臓・泌尿器疾患②	腎疾患の各論
5	腎臓・泌尿器疾患③	泌尿器科疾患、透析、腎移植
6	血液・造血器疾患①	血液・造血器の機能
7	血液・造血器疾患②	血液・造血器疾患の各論
8	アレルギー疾患・膠原病①	アレルギー疾患
9	アレルギー疾患・膠原病②	リウマチ・膠原病
10	内分泌・代謝疾患①	内分泌疾患の総論
11	内分泌・代謝疾患②	内分泌疾患の各論
12	内分泌・代謝疾患③	代謝疾患
13	脳・神経疾患①	脳・神経疾患の総論
14	脳・神経疾患②	脳血管疾患
15	脳・神経疾患③	その他の脳・神経疾患（中枢神経感染症、変性疾患など）



《専門教育科目 専門基礎科目 III群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学Ⅱ（内科系）		科目ナンバリング	K03B12017
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

患者様の看護を行うためには、それぞれの疾患の病理と病態を理解する必要があります。  
形態機能論で学んだ正常な人間の構造と機能の理解の上に成り立つ分野です。

《テキスト》

系統看護学講座「呼吸器」、「消化器」、「循環器」

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

各疾患の病理、病態、診断、治療に関する知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	呼吸器疾患①	呼吸機能と呼吸器疾患総論
2	呼吸器疾患②	呼吸器系感染症
3	呼吸器疾患③	その他呼吸器疾患（肺がんなど）
4	呼吸器疾患④	呼吸器疾患まとめ
5	循環器疾患①	循環器系の構造と循環器疾患総論
6	循環器疾患②	高血圧、虚血性心疾患
7	循環器疾患③	心不全、不整脈など
8	循環器疾患④	循環器疾患まとめ
9	消化器疾患①	消化機能と消化器疾患総論
10	消化器疾患②	上部消化管疾患
11	消化器疾患③	下部消化管疾患
12	消化器疾患④	肝・胆・膵疾患①
13	消化器疾患⑤	肝・胆・膵疾患②
14	消化器疾患⑥	消化器疾患まとめ
15	まとめ	アクティブラーニングによる臨床病理病態学全体のまとめ

科目名	臨床病理病態学Ⅲ（外科系）		科目ナンバリング	K03B12018
担当者氏名	長尾 光城、未定			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、その異常が患者にどのような苦痛や障害を起しているのか理解しなければならぬ。臨床病理病態学を学ぶことで、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうしたらよいかを知り治療や援助にどうつなげるのか考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 外科的治療を行う各疾患に必要な基礎知識、病態、検査、診断、治療について理解できる。
2. 整形外科疾患について、器官の機能上の特徴と、疾患により生じる機能障害、運動障害について述べるができる。
3. リハビリテーションの基礎的知識について理解できる。

《成績評価の方法》

筆記試験100%  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

系統看護学講座：臨床外科看護総論、医学書院  
 系統看護学講座：臨床外科看護各論、医学書院 整形外科疾患  
 ビジュアルブック：学研

《参考図書》

病気が見える1 消化器 : メディックメディア  
 病気が見える7 脳・神経 : メディックメディア  
 病気が見える4 呼吸器 : メディックメディア

《授業時間外学習》

教科書と参考図書を中心に予習・復習を十分すること。

《備考》

授業中の携帯電話の使用を禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動器の構造と機能	骨、関節、筋肉・腱・靭帯、神経、上肢、下肢、脊椎、脊髄の構造と機能
2	症状と診断	主な症状と徴候 診断と検査
3	整形外科治療	保存療法 手術療法
4	疾患の理解	骨折 関節リウマチ 変形性膝関節症(基礎知識 病態 検査 診断 治療)
5	疾患の理解	脊椎疾患 脊椎性側湾症 椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症(基礎知識 病態 検査 診断 治療)
6	外科的治療を行う患者の病態の基礎	手術侵襲と生体反応、炎症、感染症、腫瘍、外傷とショック
7	外科的治療を支える分野	麻酔法、呼吸管理、体液・栄養管理 輸血管理
8	肺および胸部	肺がん、自然気胸：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
9	肺および胸部	乳がん：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
10	消化器および腹部	胃がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
11	腸・腹膜疾患	虫垂炎、大腸がん、急性腹症：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
12	腸・腹膜疾患	イレウス、直腸肛門疾患：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
13	肝・肝外胆道系	肝がん、胆石：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
14	肝・肝外胆道系	膵臓がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
15	まとめ	まとめと復習

科目名	臨床病理病態学Ⅳ（周産期・小児科系）		科目ナンバリング	K03B12019
担当者氏名	中村 朋子、富安 俊子、米谷 昌彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力			

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の母体の生理的变化と胎児の発育状態を学び、正常からの逸脱（異常）やリスクについて考える。さらに、出生から成人に至るまでのさまざまな発達段階における主要な疾患の病態と治療やケアについて学び、周産期・小児看護の実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。

《テキスト》

系統看護学講座専門Ⅱ「母性看護学概論」「母性看護学各論」  
 系統看護学講座専門Ⅱ「小児臨床看護学概論・小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」 医学書院

《参考図書》

・看護のための最新医学講座〈14〉新生児・小児科疾患（第2版）2005中山書店  
 ・病気がみえるvol.10 産科 第3版 メディックメディア

《授業の到達目標》

1. 正常な妊娠・分娩・産褥経過および胎児の発育状態について説明することができる。
2. ハイリスク妊娠、分娩時の異常、産褥の異常について学び、予防するための看護を考えることができる。
3. 小児の成長・発達について理解できる。
4. 主要な小児疾患の病態生理を理解し、それらの治療やケアについて説明できる。

《授業時間外学習》

各講義の前にその日の講義内容についてあらかじめ教科書を読んで予習しておくこと。講義の際には可能な限りプリント配布を行うが、講義中に説明できなかった部分については読んで復習しておくこと。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験（周産期：50% 小児科系：50%）で評価する。
  - ・各担当者が定期試験にて筆記試験を実施する。
  - ・周産期は20%小テスト、30%定期試験で評価する。
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

1回～7回：周産期「母性看護学概論」「母性看護学各論」  
 8回～15回：小児科「小児臨床看護学概論・小児臨床看護総論」「小児臨床看護各論」 各教科書を持参。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊娠の成立□ 妊娠の成立	生殖器系の形態機能、不妊治療と看護、妊娠の成立
2	胎児の発育と妊娠期における母体の生理	胎児の発育と胎盤・羊水の生理、母体の生理的变化
3	ハイリスク妊娠と検査および治療	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症、妊娠中の併症、多胎妊娠、子宮外妊娠、胎児胎盤機能検査、NST
4	分娩経過	分娩の3要素、分娩経過、分娩機転、胎児心拍モニタリング
5	分娩の異常と産科処置と手術	産道・娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常、分娩時損傷、分娩時異常出血、産科的処置、吸引分娩、帝王切開術、麻酔方法
6	産褥経過（正常・異常）	産褥期の身体的変化、産褥の異常（子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、精神障害）
7	まとめ	妊娠・分娩・産褥経過の要点整理、まとめ（小テスト）
8	新生児の生理と疾患	新生児の出生後の生理的適応とその障害について学ぶ。
9	先天異常とそのケア	主な染色体異常症とその他の先天異常症についての概略を学ぶ。
10	免疫疾患・アレルギー疾患	気管支喘息、食物アレルギーなどの小児によく見られるアレルギー疾患と免疫疾患について学ぶ。
11	感染症	小児感染症の特徴と代表的疾患について症状・治療・予防について学ぶ。
12	呼吸器・循環器疾患	小児期によく見られる呼吸器疾患と心疾患、川崎病について学ぶ。
13	血液・腎・泌尿器疾患	貧血、出血性疾患、ネフローゼ症候群や腎炎など腎疾患について学ぶ
14	神経筋疾患・発達障害	てんかんをはじめとするけいれん性疾患、性麻痺、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患、小児に特有の発達障害などについて学ぶ。
15	小児の事故・救急疾患	小児の事故・救急疾患について、それらの特徴や対応の仕方について学ぶ。

科目名	看護技術論Ⅱ（診療技術援助）		科目ナンバリング	K04C12024
担当者氏名	西山 忠博、大植 由佳、宮島 多映子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけることを目的とする。安全かつ正確に与薬および検査を提供できる能力、身体侵襲を伴う看護技術について、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。

《テキスト》

- 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 茂野香おる
- 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 任 和子

《参考図書》

- 看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術：医療情報科学研究所
- 看護技術プラクティス 第3版動画付き：学研プラス
- ナーシングスキル：ELSEVIER

《授業の到達目標》

1. 検査・治療における看護技術について、目的、原理・原則、安全・安楽・自立、個別性への配慮など基本的な知識を説明できる。
2. 検査・治療における看護技術の基本的な技術を実施できる。
3. 看護技術についてエビデンスを考え、クリティカルに思考できる。

《授業時間外学習》

1. 事前にテキストの講義内容部分を予習する。
2. 予習時には、既習学習の形態機能論など講義に必要な知識を復習する。
3. 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるように、復習を必ず行う。

《成績評価の方法》

- 定期試験（60%）
  - 実技試験（20%）
  - レポート・課題（20%）
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	検査時の技術①（講義）	看護師の役割 検体検査の基礎知識と援助の実際 生体検査の基礎知識と援助の実際 侵襲的処置の介助技術
2	検査時の技術②（演習）	採血の目的・適応 採血の種類 静脈血採血の安全な注射部位 安全な採血の方法 採血の実施
3	与薬の技術①（講義）	与薬の基礎知識 看護師の役割 与薬の実際（経口与薬、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬） 安全な与薬について
4	与薬の技術②（講義）	注射の基礎知識（目的・方法・種類・物品） 筋肉内注射 皮下注射（目的・特徴・安全に実施するための方法）
5	与薬の技術③（演習）	筋肉内注射・皮下注射の実施
6	与薬の技術④（講義）	静脈内注射（法的解釈と看護師の役割 種類・目的・特徴・注射部位・安全に実施するための方法） 輸血管理の基礎知識と援助の実際
7	与薬の技術⑤（演習）	静脈内注射の実施
8	創傷管理技術（講義・演習）	創傷管理の基礎知識 包帯法 褥瘡予防の技術
9	学習のまとめ（技術の確認）	学習内容の確認
10	呼吸・循環を整える技術①（講義）	ネブライザー・吸引・酸素吸入療法・末梢循環促進ケアの基礎知識と援助方法
11	呼吸・循環を整える技術②（演習）	ネブライザー・吸引・酸素吸入療法の実施
12	呼吸・循環を整える技術③（講義・演習）	体温管理の技術 罨法の基礎知識と援助の実際 罨法の実施
13	排泄援助の技術①（講義）	導尿、浣腸の基礎知識と援助の実際
14	排泄援助の技術②（演習）	導尿援助の実際
15	排泄援助の技術③（演習）	浣腸援助の実際

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論Ⅲ（看護過程）		科目ナンバリング	K04B12025
担当者氏名	大植 由佳、西山 忠博、宮島 多映子			
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力</li> <li>○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力</li> <li>○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力</li> <li>◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</li> <li>○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力</li> </ul>			

《授業の概要》

本科目で学ぶ看護過程の技術は、基礎看護学実習Ⅱや各専門領域で必須の思考過程です。看護過程は、知識や技術を包括的に再編成し、方向性を示しながら看護を科学的に実践するために重要なものです。授業では、既習内容を想起しながら、事例でのシミュレーション学習を行います。看護の対象者に対する有効な看護援助の判断のための看護技術として、看護過程の基本的考え方を学びます。

《授業の到達目標》

1. 看護過程の意義を説明できる。
2. 看護過程の構成要素を説明できる。
3. 看護過程の各段階を説明できる。
4. 問題解決過程としての看護過程の考え方を説明できる。
5. ペーパーペーシェントでのシミュレーション学習において看護過程の展開ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60％）レポート（30％）グループワーク（10％）  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

○系統看護学講座専門分野Ⅰ 看護技術論Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 茂野香おる ○看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本看護協会出版会

《参考図書》

○疾患別看護過程+病態関連図 第2版 井上 智子 学研  
○看護過程に沿った対症看護 市村 久美子 医学書院  
○看護理論 理論と実践のリンゲージ 松木光子 ヌーベルヒロカワ  
○看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 秋葉公子 ヌーベルヒロカワ

《授業時間外学習》

1. 事例の疾患や治療・看護について基本的な知識は復習してから授業に望む。
2. グループワークを効果的に行い、課題について意見交換した上で授業に参加する。
3. 今後の実習で使う思考過程の学習であるため、自己学習で課題を進めるとともに思考過程を理解していく。

《備考》

看護過程の展開を実践するため知識・技術が習得できるよう学習してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護過程とは	問題解決過程としての看護過程、看護過程の意義、看護理論と看護過程、看護過程の構成要素、看護過程の基本となる考え方（問題解決過程、クリティカルシンキングなど）
2	看護過程の各段階 (事例A)①アセスメント	看護情報とは、情報の種類、情報源、情報収集の方法、情報の整理・分類 (事例Aを用い展開する)
3	看護過程の各段階 (事例A)②アセスメント	情報の分析・解釈
4	看護過程の各段階 (事例A)③アセスメント	課題の発表（情報の分析・解釈）、情報の統合と看護問題の明確化（看護問題の種類、看護問題と看護診断、看護問題の表記方法、看護問題の優先順位）
5	看護過程の各段階 (事例A)④問題の明確化	情報の統合と看護問題の明確化（看護診断）
6	看護過程の各段階 (事例A)⑤計画立案	課題の発表（情報の統合と看護問題の明確化） 看護計画立案（期待される成果の明確化（目標の設定）、看護計画の立案）
7	看護過程の各段階 (事例A)⑥実施・評価	課題の発表（看護計画立案）、実施、評価 看護記録とは、看護記録の記載管理における留意点、
8	看護過程の各段階 (事例A)⑦指導技術	指導技術（看護における教育・指導とは 健康に生きることを支える教育・指導 健康状態の変化に伴う教育・指導 看護の中に含まれる教育・指導
9	看護過程の各段階 (事例B)①アセスメント	情報の整理・分類、解釈・分析、統合
10	看護過程の各段階 (事例B)②アセスメント	情報の整理・分類、解釈・分析、統合
11	看護過程の各段階 (事例B)③問題の明確化	課題の発表（情報の解釈・分析） 情報の統合と看護問題の明確化
12	看護過程の各段階 (事例B)④計画立案	情報の統合と看護問題の明確化、看護問題の優先順位 計画立案（目標の設定、系統的な計画立案）
13	看護過程の各段階 (事例B)⑤計画立案	計画立案（目標の設定、系統的な計画立案）
14	看護過程の各段階 (事例B)⑥実施・評価	課題の発表（計画立案）、実施、評価
15	看護過程の各段階 (事例B)⑦ 実施・評価	計画の実施（実際に計画立案した技術を実施し振り返るグループ演習）

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K04C12027
担当者氏名	宮島 多映子、大植 由佳、西山 忠博			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 <input type="radio"/> 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input type="radio"/> 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 <input type="radio"/> 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力			

《授業の概要》

基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、対象の基本的ニーズを理解し、その人に応じた基本的な日常生活援助を指導のもとでできる。また、看護過程の展開を通じて、科学的な問題解決能力を養う。

《テキスト》

看護技術論Ⅲで使用したテキスト・参考文献および配布資料  
既習科目で使用したテキスト・参考書

《参考図書》

- 疾患別看護過程の展開：学研 山口 瑞穂子
- 看護過程に沿った対症看護：学研 高木永子
- 看護の基本となるもの：日本看護協会出版会 V.ヘンダーソン
- 看護に役立つ検査値の読み方・考え方：総合医学社 西崎統
- 他随時紹介

《授業の到達目標》

1. 対象者の看護過程を展開できる。
2. 看護学生として倫理的に行動できる。
3. 自己の看護実践を言語化しリフレクションできる。

《授業時間外学習》

1. 事前に、看護過程の展開について復習し理解する。
2. 事前に、日常生活援助の実施が安全に行えるよう看護技術の復習を行い実技の練習する。
3. 既習の学習内容を使用し、問題解決に向けた看護の展開が行えるようにする。

《成績評価の方法》

実習要項の実習評価表に基づき評価する。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

患者様に直接接することができる貴重な機会です。有意義な時間が持てるよう事前の学習と予防接種など体調管理をしてみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	-	内容の詳細は実習要項に掲載する。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護倫理	科目ナンバリング	K04B14029
担当者氏名	石田 宜子		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		

《授業の概要》

看護は、人の生き死に、生き方、生活に関わる活動であり、活動を通して看護を受ける者と相互に影響し合うため、倫理性なくしては成り立たないと言われています。また、人の価値観が多様化し、医療をはじめ社会状況が複雑化する中、何が倫理的実践なのかの判断は難しくなっています。この授業では、看護倫理の基礎を学び、倫理的問題に対する解決方法の道筋を学んでいきます。

《授業の到達目標》

1. 看護における倫理の意義、重要性を説明できる。
2. 看護倫理の原則について説明できる。
3. 看護者の倫理綱領について説明できる。
4. 看護倫理の主要な概念を説明できる。
5. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。
6. グループワークにおいて倫理的観点から討論できる。

《成績評価の方法》

成績評価は、筆記試験：40%、レポート：30%、グループワークの参加度およびレポート：30%で行う。  
 授業終了ごとに理解しづらい内容や質問を全員から用紙で受け取り、次回授業でコメントする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護倫理の基礎（1）	医療における倫理の歴史、専門職と倫理、看護倫理とは
2	看護倫理の基礎（2）	看護倫理の原則、ケアリング、看護者の倫理綱領
3	倫理的意思決定プロセス	倫理的問題とは、倫理的意思決定プロセス
4	看護の場における倫理的問題①	事例に基づいたグループワーク①
5	看護の場における倫理的問題②	グループワーク成果の発表と討議
6	看護の場における倫理的問題③	事例に基づいたグループワーク②
7	看護の場における倫理的問題④	グループワーク成果の発表と討議
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《テキスト》

系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院

《参考図書》

●S.T.フライ、他著・片田範子他訳「看護実践の倫理」第3版、日本看護協会出版会、2010 ●小西恵美子編「看護倫理」第2版、南江堂、2014 ●杉谷藤子、他「『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例30」、日本看護協会出版会、2007 ●吉田みつ子「看護倫理 見ているものが違うから起こること」、医学書院、2013

《授業時間外学習》

- ・授業までに、教科書の関連する箇所を読んでおく
- ・ワーク課題については、参考図書をはじめ文献を広く読むこと

《備考》

授業日程は、別途掲示します。

科目名	成人看護学概論		科目ナンバリング	K05C12031
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力			

《授業の概要》

成人期は、心身の機能的には成熟から徐々に老いに向かう時期であり、社会的には役割や責任が大きい時期である。こうした成人期にある人の健康と、健康を脅かす要因および健康問題の特徴を理解する。また、成人を対象とした保健医療の動向と対策、保健活動を理解する。そして、健康上の問題の予防および回復に向けての看護援助を考える。

《授業の到達目標》

- ①ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。
- ②成人期にある人の生活を理解する。
- ③成人期にある人の健康を脅かす要因と、健康問題の特徴を理解する。
- ④成人期にある人の健康の維持増進、健康問題の予防に向けた援助を理解する。
- ⑤成人期にある人への看護に有用な概念を理解する。

《成績評価の方法》

成績評価は筆記試験（小テスト及び期末試験）：60%、レポート：20%、グループワーク参加度：20%で評価する。  
 授業終了ごとに理解しづらい箇所や質問を全員から用紙で受け取り、次回授業でコメントする。小テストは授業内で解答例を示し、レポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	成人期にある人の特徴	ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解する。 成人期の特徴を理解する。
2	成人期にある人の生活と健康状態の特徴	成人期にある人の生活の様相を理解する。 成人期にある人の健康状態の特徴を理解する。
3	成人期にある人の健康を脅かす要因	成人期にある人の健康を脅かす要因を理解する。
4	生活習慣からみた健康問題①	生活習慣に関連した健康問題を取り上げ、その要因、成り行き、予防や課題についてグループワークを行う。
5	生活習慣からみた健康問題②	グループワークの成果発表を行う。
6	保健医療福祉システムとヘルスプロモーション	成人期にある人の健康を守るための社会的施策を理解する。
7	健康レベルに応じた看護-急性期	急性期にある人の特徴と看護を理解する。
8	健康レベルに応じた看護-回復期	回復期にある人の特徴と看護を理解する。
9	健康レベルに応じた看護-慢性期	慢性期にある人の特徴と看護を理解する。
10	健康レベルに応じた看護-終末期	終末期にある人の特徴と看護を理解する。
11	健康レベルに応じた看護-まとめ(小テストを含む)	健康レベルに応じた看護を理解する。
12	成人看護に有用な概念①	成人看護に有用な概念の定義、適用、実践例などについてグループワークを行う。
13	成人看護に有用な概念②	グループワークの続き
14	成人看護に有用な概念③	グループワークの成果発表を行う。
15	成人期にある人と看護倫理	看護を行う上での倫理を理解し、看護実践に向けた態度を理解する。

《テキスト》

「系統看護学講座 成人看護学総論」小松浩子他、医学書院  
 「国民衛生の動向2016/2017」厚生労働統計協会

《参考図書》

「成人看護学概論」安酸史子他、第3版、メディカ出版  
 「成人看護学概論 成人保健」黒江ゆり子他、V5.メヂカルフレンド社  
 「成人看護学概論」林 直子他、第2版、南江堂  
 「成人看護学概論」大西和子他、第2版、メグエルヒコカ  
 「看護のための人間発達学」舟島なをみ、医学書院

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲の教科書を読んで授業に臨む。
- ・ 授業終了後に教科書、授業ノート、参考書などをもとに復習する。
- ・ レポート、グループワーク課題は広く資料を集め、計画的に作成を進める。

《備考》

成人看護学概論は、成人看護学の基礎となる授業である。授業をはじめ、社会で問題となっている健康問題に関心をもち、自主的、積極的に学ぶ態度を期待します。



科目名	成人看護援助論 I（生命危機状態にある人）		科目ナンバリング	K05C13032
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input type="radio"/> 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 <input type="radio"/> 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 <input checked="" type="radio"/> 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 <input type="radio"/> 3-8 終末期にある人々を援助する能力			

《授業の概要》

急性期は急激な健康状態の変化が起こり、身体的侵襲や心理的動揺が大きい時期である。急性期にある成人期の患者、家族の特徴と課題を中心に、看護の役割を学ぶ。また生命の危機的状況にある患者と家族を理解するための理論を学んでいく。さらに周手術期各期の患者の身体的、心理的、社会的影響や外科看護の特徴について理解し、回復過程への援助を学ぶ。

《授業の到達目標》

- (1) 急性期状態にある患者、家族の特徴と看護がわかる。
- (2) 周手術期各期の特徴と必要な看護援助が説明できる。
- (3) 高侵襲な治療を受ける患者の看護が理解できる。
- (4) 周手術期患者の看護過程の展開ができる。
- (5) 周手術期患者に必要な援助と看護技術が実践できる。

《成績評価の方法》

試験70%、演習・レポート課題30%とする。  
\*レポートはコメントを付して返却する。

《テキスト》

(1) 臨床外科看護総論 矢永勝彦他編、医学書院 (2) 「成人看護学2.3.5.7.8.9.10」医学書院 (3) 実践看護アセスメント 渡辺トシ子編 スーパーヒロカワ

《参考図書》

- (1) 「写真でみる整形外科看護」 山元恵子インターメディカ
- (2) 疾患別看護過程 医学書院
- (3) 症状別看護過程 医学書院
- (4) 看護診断ハンドブック 医学書院
- (5) クリティカルケア看護学 医学書院
- (6) リハビリテーション看護 医学書院

《授業時間外学習》

授業の予習、復習をすること  
看護過程の演習では、次回までの課題は必ずしてこること

《備考》

成人看護援助論 I では、基本的に講義はA、B合同、演習はA、Bクラスに分かれて行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	急性期看護の特徴 外科患者の病態の基礎	急性期の概念と特徴を理解し、急性状態にある患者と家族の看護の特徴、手術を受ける患者の身体侵襲や生体反応などの病態について学ぶ。
2	手術期看護：術前 術中	手術、麻酔の侵襲と手術室における看護師の役割について理解できる。手術前患者のリスクアセスメント、患者の術前処置等の目的や援助内容が説明でき。
3	手術期看護：術直後 術後	術後合併症の予防や侵襲からの回復促進に向けた看護が理解できる。観察やアセスメント、疼痛への援助内容が説明できる。
4	消化、排泄機能に障害のある患者の看護	開腹術、腹腔鏡下切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
5	脳、運動機能に障害のある患者の看護	開頭術、人工関節置換術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
6	性、生殖機能に障害のある患者の看護	性・生殖器切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
7	循環、呼吸機能に障害のある患者の看護	開胸術、胸腔鏡下切除術を受ける患者の特徴や看護を理解し、援助内容を説明できる。
8	看護過程の展開方法	ゴードンの考えによる概念枠組み/機能的健康パターンの分類/機能的健康パターンの看護診断の臨床活用/アセスメントガイドの看護過程の方法を学ぶ。
9	周手術期看護：演習 心肺蘇生法：演習	自動輸液ポンプ、シリンジポンプ、ドレーンの管理、創傷処置等基本技術について学び、術後患者の状態をイメージすることができる。心肺蘇生法の説明ができる。
10	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
11	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
12	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
13	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
14	周手術期看護：事例技術 演習	術後患者の状態を観察する視点が説明できる。回復支援にむけた管理の説明ができる。
15	周手術期看護：事例技術 演習	術後患者の状態を観察する視点が説明できる。回復支援にむけた管理の説明ができる。

科目名	成人看護援助論Ⅱ (常態の維持・増進が困難な人)		科目ナンバリング	K05C13033
担当者氏名	石田 宜子、白神 佐知子、大植 崇、塩 霧都恵、大塚 千秋、和田 知世、廣田 真里			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力			

《授業の概要》

慢性的な健康問題をもつ人々を理解するための基礎的な概念や理論を学習し、対象がセルフケア能力を高め、病気と折り合いをつけながら、その人らしい生活が営めるような看護援助の考え方と方法を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 慢性的な健康障害をもつ人・家族の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
2. 慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護援助を具体的に述べるができる。
3. 様々な問題を有する慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護を立案できる。

《成績評価の方法》

総合的に評価します。  
 グループワークへの参加10% 課題レポート30%、試験60%  
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

- 1) 成人看護学 慢性期看護論 ノーヴェルヒロカワ
- 2) がん看護学 医学書院
- 3) 緩和ケア [第2版] 医学書院

《参考図書》

- 1) 「病気がみえる」シリーズ:メディックメディア
- 2) 「なぜ? どうして?」シリーズ:メディックメディア
- 3) 疾患別看護過程 : 医学書院
- 4) 症状別看護過程 : 医学書院
- 5) 看護診断ハンドブック: 医学書院

《授業時間外学習》

成人看護学では、解剖学、生理学、病態学、治療学、看護援助論等の知識が必須です。これらの知識は既習していることを前提に授業は進みます。自己学習がとても重要です。

《備考》

◎講義はA・B合同で行う。演習はA・Bに分かれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	慢性期看護の考え方	糖尿病患者看護事例: ①慢性期とは、②慢性疾患・治療の特徴、③生活習慣病の予防と、④慢性的な健康問題をもつ人の治療・療養環境について理解することができる。
2	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	糖尿病患者看護事例: ①セルフケア能力を高めるための教育的支援と看護援助、②慢性的な健康問題を持つ人の家族への支援を理解することができる。
3	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	呼吸不全患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
4	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	急性骨髄性白血病患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
5	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性腎不全の血液透析患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
6	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	脳梗塞患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
7	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	肝硬変患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
8	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性心不全患者の看護事例: 症状マネジメント(IASM): ①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助を理解することができる。
9	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がん医療の特徴と緩和ケアの概念: わが国におけるがん対策の歩み、がんの予防、緩和ケアの概念について理解する事ができる。
10	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんの主な治療と看護: 放射線療法、化学療法を受ける患者への支援の実際を理解することができる。
11	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: がんの受け止め方、死に行く患者の心理プロセス(危機理論)、トータルペインを理解し、援助の実際について理解することができる。
12	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: トータルペイン(身体的・精神的・社会的)について理解し、援助の実際について理解することができる。
13	慢性的な健康問題をもつ人への看護: がん看護	がんとともに生きる人・家族の理解: トータルペイン(身体的・精神的・社会的)について理解し、援助の実際について理解することができる。
14	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	終末期の症状緩和と看取りのケア: 終末期に起こる症状とケア、補完代替療法、エンゼルケア、医療者のグリーフケアについて理解することができる。
15	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	グループワークでがんとともに生きる人・家族の個別性を踏まえた看護援助を立案し、ロールプレイングを通して患者家族の思いに沿った援助を理解することができる。

科目名	老年看護学概論		科目ナンバリング	K05B12036
担当者氏名	小野 晴子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力			

《授業の概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療・看護過程について教授する。加齢に伴う身体的・精神的に起こりうる様々な加齢現象を理解し、そのことが生活機能に及ぼす影響、また必要な援助方法について教授する。事例による看護過程の展開、地域高齢者を対象とした健康教室では高齢者の健康測定と指導を実施する。

《テキスト》

「系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」、  
「看護診断ハンドブック」医学書院

《参考図書》

「生活機能からみた老年看護過程」医学書院、  
「看護過程に沿って対症看護」学研、  
「疾患別/看護ケアのための病態関連図」医学芸術社

《授業の到達目標》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程に伴う看護を理解できる。また、疾患及び加齢現象から生じる症状が生活機能に及ぼす影響について理解でき、必要な援助方法について考えることができる。

《授業時間外学習》

グループでの積極的な参加を行い学ぶ。  
技術演習前にDVD視聴：口腔ケア、排泄援助  
おむつの体験

《成績評価の方法》

レポート：20%  
小テスト：20%  
筆記試験：60%  
分らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

技術演習前は、eラーニング学習システムを利用して積極的に予習をすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学概念	ガイダンス 老年看護の概念、高齢者のQOLと老年看護
2	高齢者社会と社会保障	高齢化社会における保健医療福祉の動向
3	老年看護の基盤	★小テスト 老年看護のなりたち、老年看護の役割と責務
4	高齢者の理解 1)	身体・精神・社会的・ライフステージにおける加齢変化とアセスメント 【グループワーク：まとめ】
5	高齢者の理解 2)	身体・精神・社会的・ライフステージにおける加齢変化とアセスメント 【グループワーク：報告会】
6	高齢者の生活機能を支える看護の展開 1)	★小テスト 日常生活を支える基本的活：環境、生活リズムのアセスメント、
7	高齢者の生活機能を支える看護の展開 2)	日常生活を支える基本的活：食事・食生活、排泄のアセスメント
8	高齢者の生活機能を支える看護の展開 3)	日常生活を支える基本的活：清潔、コミュニケーションのアセスメント
9	高齢者疑似体験 1)	高齢者疑似体験①G（②・③Gは高齢者の歴史について年表をまとまる。）
10	高齢者疑似体験 2)	高齢者疑似体験②G（①・③Gは高齢者の歴史について年表をまとまる。）
11	高齢者疑似体験 3)	高齢者疑似体験③G（①・②Gは高齢者の歴史について年表をまとまる。）
12	高齢者の歴史	高齢者が歩んだ人生【グループワーク：報告会】
13	老年看護の実践	高齢者の自立支援・介護予防への援助、セルフケアへの援助
14	老年看護の実践	高齢者の倫理的課題、高齢社会における権利擁護
15	老年看護の実践	高齢者看護の経験者から学ぶ

科目名	母性看護学概論		科目ナンバリング	K06C12040
担当者氏名	富安 俊子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

女性の一生を通して健康の維持、増進と疾病の予防に関わる領域であることを認識できるように、女性にまつわる社会の状況の変化や現状について学ぶ。また、母性看護の変遷と現状、母性保健・医療・福祉の動向を踏まえて、今後の母性看護を考える。また、女性ライフサイクル各期、思春期の性行動と関連した社会問題やジェンダー、更年期女性の看護の視点についても学ぶ。母性看護学の基本的能力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 母性看護の意義と役割について説明できる。
2. 母性看護の歴史と発展を日本と諸外国について認識できる。
3. 性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブヘルス/ライツ）の概念を考える。
4. 母性看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
5. 統計からみた母性看護の動向を探り課題を考える。

《成績評価の方法》

定期試験（70%）、小テスト（10%）、レポート（20%）より総合的に評価する。レポート提出期限厳守。遅れたものは評価しない。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母性看護の目的と役割	母性看護の概念について学び、母性看護で用いられる理論について説明することができる。
2	母性看護の歴史の変遷と現状	母性看護の歴史の変遷について学び、現状について考察できる。
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツについて説明することができる。
4	母性看護と倫理的問題	母性看護における法的責任と倫理、生殖医療について学び、自己の倫理観を深めるとともに、対象の意思決定を支援するための倫理的看護活動を考察できる。
5	母子保健に関する統計と現状の課題	母子保健統計、母子保健行政について学ぶとともに、母子を取り巻く社会の現状と今後の課題について考察できる。
6	ライフサイクル各期の健康問題と看護/思春期	思春期の特徴と健康状態を理解し、この時期の健康課題への看護を考察できる。
7	ライフサイクル各期の健康問題と看護/成熟期	成熟期の特徴と健康状態を理解し、この時期の健康課題への看護を考察できる。
8	母性看護過程	母性看護過程とは、ウェルネス診断について学び、母性の看護過程を理解し、母性看護学援助論での看護過程の継続することができる。(1-7小テスト)
9	周産期の健康問題と看護/妊娠期	妊娠の経過、起こりやすい健康課題について学び、妊婦への看護を説明することができる。
10	周産期の健康問題と看護/分娩期	分娩期の経過、起こりやすい健康課題について学び、妊婦への看護を説明することができる。
11	ハイリスク妊娠/分娩	妊婦産婦のハイリスクを学び、異常を予防するための看護および異常が起きた場合の看護を説明することができる。
12	周産期の健康問題と看護/産褥期	産褥期の身体的、心理的社会的変化、起こりやすい健康課題について学び、妊婦への看護を説明することができる。
13	周産期の健康問題と看護/新生児期	新生児の生理的变化、起こりやすい健康課題について学び、新生児への看護を説明することができる。
14	ハイリスク産褥・新生児	産褥・新生児のハイリスクを学び、異常を予防するための看護および異常が起きた場合の看護を説明することができる。
15	女性の健康問題と看護/更年期・老年期まとめ	更年期・老年期の特徴と健康状態を理解し、この時期の健康課題への看護を説明できる。

《テキスト》

1. 系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 医学書院
2. 系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 医学書院
3. ウェルネス看護診断にもとづく母性の看護過程 医歯薬出版

《参考図書》

わが国の母子保健 母性衛生研究会  
 母性保険のおもなる統計  
 国民衛生の動向  
 ナーシング・グラフィカ母性看護実践の基本 メディカ出版

《授業時間外学習》

授業前に必ずテキストをもむこと。  
 授業終了後復讐をすること。

《備考》

講義中私語及び携帯電話は禁ずる。  
 講義開始時間を厳守する。

科目名	小児看護学概論		科目ナンバリング	K06C12043
担当者氏名	森田 恵子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力			

《授業の概要》

小児と小児を取り巻く社会を理解し、子どもの健康や成長発達を支える小児看護の特質を考える。子どもの権利を尊重する考え方と小児の成長・発達を学ぶ。また、小児看護で用いられる理論、小児看護と法律・施策、小児看護の歴史と変遷について考える。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院  
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院  
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

子どものフィジカルアセスメント 金原出版  
 子どもの病気の地図帳 講談社  
 入院のための遊びとおもちゃ 中央法規

《授業の到達目標》

1. 小児看護の対象を理解し、小児看護の目標と役割について説明することができる。2. 子どもの権利を尊重する考え方を知り、自分の考えを述べるすることができる。3. 子どもの成長・発達について説明することができる。4. 小児看護の歴史と変遷について考えることができる。5. 小児と家族に関する法律や施策について知ることができる。6. 小児看護で用いられる理論について知り、子どもの理解につなげることができる。

《授業時間外学習》

講義内容や課題学習について、復習を行うこと。  
 子どもの理解に活用すること。

《成績評価の方法》

定期試験70%レポート提出や課題の発表内容30%で評価する。

《備考》

課題やグループ学習を行うため、自主的な学習への取り組みが必要になる。自覚を持ち授業に臨むこと。自分なりの子どもイメージを持つこと。

\*わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 子どもとは	子どもとは何かを幅広い視点で考える。また、世界の子どもから家族・社会における子どもの位置づけについて考える。
2	子どもと家族と子どもの権利	少子化によって変化する家族の機能と特徴について具体的に理解する。また、具体的事例を用いて子どもの権利を考える。
3	小児の成長・発達・栄養	子どもの成長・発達の原則、影響因子と評価方法を理解する。また、子どもにとっての栄養の重要性を理解する。
4	乳児期の成長・発達と看護1	各時期の成長・発達を理論をもとに理解し、時期に応じた看護を理解する。乳児期の形態的特徴、身体生理特徴、発達の評価を学ぶ。
5	乳児期の成長・発達と看護2	乳児期の反射と発達の変化、発達課題と看護について理解する。
6	幼児期の成長・発達と看護1	幼児期の形態的特徴、身体生理特徴、運動機能、認知機能、情緒・社会的機能を学ぶ。
7	幼児期の成長・発達と看護2	幼児期の基本的な生活習慣の獲得過程と発達段階、遊びを通して看護を理解する。
8	学童期の成長・発達と看護1	学童期の形態的特徴と身体生理の特徴、諸機能を学ぶ。
9	学童期の成長・発達と看護2	学童期の社会的機能、発達課題や社会的問題を通して看護を理解する。
10	思春期の成長・発達と看護	思春期の身体生理の特徴、発達課題や社会的問題を通して看護を理解する。
11	小児と家族を取り巻く社会	小児と家族への社会制度と施策について、実際の家族の状況を基に学ぶ。
12	子どもの生活から学ぶ1	子どもの生活を知り、展開学習をすることで、子どもの理解をより深める。
13	子どもの生活から学ぶ2	子どもの生活を知り、展開学習をすることで、子どもの理解を深める。
14	子どもの生活から学ぶ3	子どもの生活を知り、展開学習で得た子どもの生活の学びを発表する。また、学びを共有する。
15	小児看護における倫理と小児看護の今後の課題	具体的事例から小児看護と倫理について理解する。また、現在の子どものと家族が置かれている状況を踏まえながら小児看護の変遷とともに今後の課題を考える。

科目名	精神看護学概論		科目ナンバリング	K07C12046
担当者氏名	加藤 知可子、南川 博康			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力			

《授業の概要》

精神看護学の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健康な精神発達への援助を思考するために必要な知識や概念を理解することを目的とする。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）  
 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学ノート」第2版 武井麻子 著（医学書院）  
 「精神科医療看護の歩」宮内充著（医学書院）

《授業の到達目標》

- 心の健康を保持・増進するために必要な基礎知識を説明できる。
- 精神看護学や精神医療に関連する基本的な概念を説明できる。
- 精神看護学の役割について説明できる。○精神障がい者の人権に関連する法律について説明できる。○心の障がいを持つ対象者への看護に関する基本的概念について説明できる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。
- (2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は資料や図書を用いて調べたり、質問する。

《成績評価の方法》

特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより授業計画や成績評価法には変更を加えることはある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健・精神看護学の定義	精神保健・精神看護学の定義について基本的な概念を説明できる。
2	精神保健医療の歴史	精神保健医療の歴史について、基本的な知見を説明できる。
3	臨床における心の健康と不健康	臨床における心の健康と不健康について、基本的な概念を説明できる。
4	患者・家族のこころ	精神障がいを持つ患者・家族の背景について説明できる。
5	精神神経医学各論1 統合失調症	統合失調症に関する基本的な概念を説明できる。
6	精神神経医学各論2 感情障害	感情障害に関する基本的な概念を説明できる。
7	ライフサイクルと精神保健 危機的状況	ライフサイクルと精神保健について、危機的状況の視点から説明できる。
8	看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスに関する基本的な概念を説明できる。
9	精神障がい者に関する法と 関連事件	精神障がいに関する法の変遷について説明できる。
10	精神神経医学各論3 神経症性障害	神経症性障害に関する基本的な概念を説明できる。
11	精神神経医学各論4 癲癇 器質性障害	癲癇や器質性障害に関する基本的な概念を説明できる。
12	精神神経医学各論5 物質障害	物質障害、パーソナリティ障害等に関する基本的な概念を説明できる。
13	精神神経医学各論6 リエゾン精神医学	リエゾン精神医学に関する基本的な概念を説明できる。
14	ストレスと危機	ストレスと危機に関する基本的な概念を説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する基本的な概念を説明できる。

科目名	在宅看護概論		科目ナンバリング	K07B12049
担当者氏名	新田 幸子、高見 千恵			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力			

《授業の概要》

2025年に向けて、地域包括ケアシステムがどのように構築されていくのか概要を理解する。その中で、在宅で療養する人々や病気や障害を持ちながら社会で暮らす人とその家族の生活をケアする看護の役割と機能を理解する。質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基礎的知識・技術・態度を学習する。

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2015

《参考図書》

在宅看護論「地域療養を支えるケア」  
ナーシング・グラフィカ メディカ出版 2015  
「国民衛生の動向」

《授業の到達目標》

- ・在宅看護の現状から在宅看護がめざすものやその目的を知る
- ・在宅看護の対象(療養者とその家族)が理解できる
- ・在宅看護の提供される場とその広がりについて説明できる
- ・QOLを考えた在宅看護について考察できる
- ・在宅看護を実践する看護師の役割と機能が説明できる
- ・介護保険制度が理解でき説明できる
- ・地域包括ケアシステムについて説明できる

《授業時間外学習》

在宅看護は、広く地域に暮らす生活者を対象に、あらゆる健康レベルへの看護を提供します。あなたが居住している地域の特徴(高齢化率等)を調べておくこと。在宅看護は、家族が身近でかつ重要な部分を占めます。あなたにとっての家族とはなにかを考えておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験による評価(100%)  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

身近にいる高齢者はどのように生活をされているのだろうか。また、どのような社会資源があるのだろうかなど興味を持って下さい。テレビや新聞からもたくさんの情報が得られます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護とはなにか 導入	病院から在宅へ療養の場を移行する方向へ国の動き 日本の在宅医療の動向と地域ケアシステムの構築
2	在宅看護の対象者 在宅看護の目ざすもの	年齢疾患・障害・在宅療養状態別・訪問看護制度の経緯からみた対象者の特徴
3	在宅看護に求められていること	DVD～これからの在宅看護のあり方を考えよう～ 訪問看護の実際～訪問看護ステーションの現場から学ぼう～
4	地域連携システムの必要性	DVD療養の場の移行に伴う看護～病院から退院するまでの実際をみてみよう～ 療養を支える在宅ケアチーム
5	在宅看護における看護師の倫理	看護師の職業倫理を基に、事例を取り上げ「家族介護者が発した言葉」、「訪問看護師の本音の言葉」から考える。在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
6	在宅療養者と家族	システム理論を用いた家族のとらえ方
7	介護保険制度とは	介護保険制度での訪問看護制度
8	世界の訪問看護の動向	アメリカ・デンマーク・イギリスの訪問看護サービス ドイツの文化と高齢者福祉の現状 訪問介護の実際
9	成年後見制度	成年後見制度とは何か 法定後見 任意後見 事例を通して理解する
10	在宅看護における安全性の確保	感染防止 医療事故防止 災害時の在宅看護(災害時の対応 訪問看護師の防災教育・訓練(被災時の対応・家族への安全対策指導))
11	在宅看護過程の展開方法	要介護状態にある高齢者の事例から365日24時間安心して生活していくためのマネジメントの過程を理解する
12	訪問看護活動の実際	ゲストスピーカーによる講義を通して、訪問看護活動の実際について理解する。
13	在宅での看取り	住み慣れた自宅での死について DVD を視聴して在宅死を理解する
14	在宅での看取り	住み慣れた自宅での死について DVD を視聴して在宅死を理解する
15	まとめ	まとめと復習 在宅看護論看護師国家試験過去問題の攻略

科目名	公衆衛生看護学概論		科目ナンバリング	K07B12052
担当者氏名	福川 京子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力			

《授業の概要》

保健師の専門性の基盤となる公衆衛生看護の理念および活動の特性を学修する。

《テキスト》

公衆衛生看護学概論（標準保健師講座1）医学書院

《参考図書》

国民衛生の動向 厚生統計協会  
 保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）医学書院

《授業の到達目標》

- ・公衆衛生看護の理念と歴史的背景を理解できる。
- ・公衆衛生看護の倫理を理解できる。
- ・公衆衛生看護の対象・場を理解できる。
- ・公衆衛生看護活動の展開を理解できる。
- ・公衆衛生看護管理を理解できる。

《授業時間外学習》

知識の整理だけでなく、レポート等課題をとおして自己の考察を深めることに努めること。

《成績評価の方法》

- ・定期試験 70%
  - ・レポート等課題 30%
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護の理念	公衆衛生看護の理念と基盤となる概念について学ぶ
2	公衆衛生看護の歴史	公衆衛生看護の歴史的背景を学ぶ
3	公衆衛生看護の倫理	公衆衛生看護の基盤となる倫理について学ぶ
4	公衆衛生看護の対象1 健康の決定要因	公衆衛生看護の対象を見極める健康の社会的・環境的決定要因について学ぶ
5	公衆衛生看護の対象2 個人・家族	公衆衛生看護の対象となる個人・家族への支援の視点について学ぶ
6	公衆衛生看護の対象3 グループ・組織・地域	公衆衛生看護の対象となるグループ・組織・地域への支援の視点について学ぶ
7	公衆衛生看護の場	公衆衛生看護の場である行政機関、職域、学校、医療施設、社会福祉施設等について学ぶ
8	公衆衛生看護活動の展開1 基盤となる理論	公衆衛生看護活動の展開の基盤となる理論について学ぶ
9	公衆衛生看護活動の展開2 法的根拠	公衆衛生看護活動の展開の根拠となる法規について学ぶ
10	公衆衛生看護活動の展開3 方法	公衆衛生看護活動の展開の方法について学ぶ
11	公衆衛生看護活動の展開4 計画・実践・評価	公衆衛生看護活動の展開の基本となるPDCAサイクル、地域診断について学ぶ
12	公衆衛生看護活動の展開5 事業計画立案と実践	事業計画立案と実践プロセスについて学ぶ
13	公衆衛生看護管理1 目的・機能・内容	公衆衛生看護管理の目的・機能・内容について学ぶ
14	公衆衛生看護管理2 健康危機管理	健康危機管理と公衆衛生看護活動の視点について学ぶ
15	まとめ	まとめ



科目名	健康教育論		科目ナンバリング	K07B13053
担当者氏名	石田 宜子			
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

健康教育の目的と、基礎となる理論を学習する。そして具体的な教育技術と展開方法を学び、実践できる基礎的能力を養う。

《テキスト》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

- ・健康教育の目的を理解する。
- ・健康教育の基礎となる理論を理解する。
- ・健康教育の具体的な教育技術と展開方法を理解する。
- ・対象に分かりやすく伝える構成、内容、媒体で健康教育を模擬的に実践する。

《参考図書》

「最新保健学講座 健康教育論」宮坂忠夫他、メヂカルフレンド社  
 「医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎」松本千明、医歯薬出版  
 「医療・保健フタツフのための健康行動理論実践編」松本千明、医歯薬出版

《授業時間外学習》

課題は参考図書をはじめ、資料を用いて学習する。

《成績評価の方法》

成績評価は、筆記試験：60%、レポート：20%、グループワーク参加度：20%で行う。

授業終了ごとに理解しづらい箇所や質問を全員から用紙で受け取り、次回授業でコメントする。レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康教育とは	健康教育の意義、目的、方法について理解する。
2	健康教育の基礎となる理論	健康教育の基礎となる理論を理解する。
3	健康教育の方法①	健康教育の基本的な方法について理解する。
4	健康教育の方法②	健康教育の媒体とその特徴を理解する。
5	健康教育の実際①	健康教育の企画を行う。
6	健康教育の実際②	健康教育の実践に向けた準備を行う。
7	健康教育の実際③	健康教育を相互に実施し、その評価を行う。
8	まとめ	全体の振り返りを行う。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	学校保健概論		科目ナンバリング	K07C12054
担当者氏名	柴田 順子			
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力</li> <li>○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力</li> <li>○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力</li> <li>◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力</li> <li>○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力</li> </ul>			

《授業の概要》

公衆衛生看護学領域の一分野である学校保健領域では、教育を受ける権利を保障するため、心身ともに健康な児童生徒等の育成を図ることを目指している。本講義では、学校保健の基本と関係法規、学校保健活動について学習する。

《テキスト》

公衆衛生看護学テキスト4『公衆衛生看護学活動Ⅱ 学校保健・産業保健』責任編集 荒木田美香子 医歯薬出版 2015年

《参考図書》

『学校保健マニュアル改訂8版』江藤隆・岡田加奈子編 南山堂  
『学校保健概論』渡邊正樹編著 光生館 2014年

《授業の到達目標》

- 学校保健の概念が理解できる。
- 学校保健に関連する法規について理解できる。
- 学校保健活動の実際と活動内容の概要が理解できる。

《授業時間外学習》

講義終了後、課題レポートを提出する。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度、課題レポート等の提出30%
  - (2) 定期試験70%（テキスト、資料等は持ち込み不可）
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

学校保健に関連する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健の概念	学校保健の理念と目的、学校保健制度とシステムについて理解する。
2	学校保健の現状	学校保健の歴史、児童生徒等の発達と課題について理解する。
3	学校保健活動の展開①	学校保健統計調査と健康情報の活用の実際について理解する。
4	学校保健活動の展開②	学校保健の領域構造における保健管理の実際について理解する。
5	学校保健と連携	学校保健では地域や他職種との連携は重要であり、社会資源の積極的活用も必要であることを理解する。
6	学校保健活動の展開③	学校保健の領域構造における保健教育の実際について理解する。
7	学校保健と危機管理	学校保健における危機管理の実際について理解する。
8	特別支援教育 諸外国の学校保健	インクルーシブ教育について理解する。 諸外国の学校保健について理解する。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	国際看護学 I		科目ナンバリング	K08B12072	
担当者氏名	大植 崇				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力</li> <li>○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力</li> <li>◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力</li> <li>○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力</li> <li>○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力</li> </ul>				

《授業の概要》

世界の人々の健康と保健医療の現状について理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済的、文化的な要因について考える。また、国際保健・看護の主要な概念や異文化看護の理論と国際保健協力の組織、具体的な事例を学び、世界の健康問題と国際保健協力について学習する。

《テキスト》

田村やよひ編 新体系看護学全書 39 看護の統合と実践 ③  
国際看護学 メヂカルフレンド社

《参考図書》

近藤麻理「知って考えて実践する国際看護」医学書院 2011

《授業の到達目標》

海外の医療・看護に触れ、海外に対する自己の視野を広げ海外協力について考えることができる。  
異文化を知ると共に、医療・看護活動の実際を知ることができる。

《授業時間外学習》

最近起きている国際的なニュースを新聞やTVの報道に興味・関心をもって聴くこと。また、国際的に看護活動を実践している看護職者の現状をインターネット等で調べておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、講義に対する積極的な態度（20%）で評価をする。  
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 国際看護学とは	オリエンテーション・異文化看護理論：国際看護学とはなにか（国際看護学の定義、多文化看護の概念、レイニンガーの看護理論）
2	国際機関の役割と国際看護活動	国際機関の役割と国際看護活動：世界保健機関（WHO）、国際看護師協会（ICN）、国際助産師連盟（ICM）国際協力機構（JICA）、非政府団体（NGO）など
3	異文化理解	海外の文化を紹介し、異文化理解の重要性について理解する。
4	グローバル・ヘルスの課題	SDGs：MDGからSDGへ概説 健康の経済的、社会的、環境的背景 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 妊産婦・小児の健康と栄養失調 感染症 メンタルヘルスなど
5	在日外国人への看護	在日外国人の人口動態・在日外国人の健康支援、訪日外国人への支援
6	国際看護に必要な視点	国際看護に必要な視点：グループワークを通し、他国の背景にある国民性や価値観や風習、基本的な生活習慣など数多くの相違を意見交換し、その内容を発表する。
7	国際看護に必要な視点	国際看護に必要な視点：グループワークを通し、他国の背景にある国民性や価値観や風習、基本的な生活習慣など数多くの相違を意見交換し、その内容を発表する。
8	国際看護に必要な視点	発表とまとめ
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 関連科目 X群（養護教諭関連）》

科目名	養護概説	科目ナンバリング	K10E22071
担当者氏名	柴田 順子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		

《授業の概要》

養護教諭に関する関係法令等の基本事項を理解し、養護教諭の専門性と役割及び職務について学習する。学校保健活動には学校内外との連携が重要であり、学校保健関係者の役割と職務についても理解する。既習の看護学を体系的に概観し児童生徒等の健康課題を理解し対応について学ぶ。

《テキスト》

『新養護概説』第9版 采女智津江編、少年写真新聞社、2016年  
 『児童生徒等の健康診断マニュアル』文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修（財）日本学校保健会2015年

《参考図書》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010年  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編、南山堂2010年

《授業の到達目標》

- 養護教諭に関する関係法令等の基本事項が理解できる。
- 養護教諭の専門性と役割及び職務について説明ができる。
- 児童生徒等の健康課題に対する対応について理解できる。

《授業時間外学習》

養護教諭の職務を理解するために既習科目を復習しておく。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度、小テスト、課題レポート等の提出50%
  - (2) 定期試験50%（テキスト、資料等は持ち込み不可）
- 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

教育関係に関連する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 養護教諭と保健室	授業の進め方 学校における保健室の場がもつ特性について理解する。
2	養護教諭制度の変遷	養護教諭の歴史について理解する。
3	養護教諭と関係法令	法律における養護教諭に関する規定について理解する。
4	学校教育と学校保健	教育の目的、学校教育と学校保健関係法令について理解する。
5	養護教諭の専門性	養護教諭の職務に関する経緯、専門領域における職務内容について理解する。
6	養護教諭の職務 保健管理①	健康診断の法的根拠、定期健康診断、臨時の健康診断、就学時健康診断、職員の健康診断について理解する。
7	養護教諭の職務 保健管理②	学校における救急処置、救急体制の確立、事故発生時の対応について理解する。
8	養護教諭の職務 保健管理③	健康観察、疾病管理、学校環境衛生等について理解する。
9	養護教諭の職務 保健教育①	教育課程における保健教育の位置付けと保健学習について理解する。
10	養護教諭の職務 保健教育②	特別活動における保健指導、個別の保健指導について理解する。
11	養護教諭の職務 保健管理④	学校における健康相談、精神保健について理解する。
12	保健室の機能と保健室経営	法的根拠、保健室の機能と役割、保健室経営、保健組織活動について理解する。
13	学校安全と危機管理	学校における危機管理、子どもの心のケアについて理解する。
14	現代的な健康課題とその対応	中央教育審議会答申を踏まえ、健康課題とその対応について理解する。
15	まとめ	養護概説についてまとめる。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	KTAL42003
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）  
課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳・特別活動を含む）		科目ナンバリング	KTAL42005	
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程全般についての知識や学習指導要領に沿ってどのように教育内容を展開していくかを学ぶ。学習指導要領がどのように歴史の変遷を経て改訂されたかも学ぶ。各校種別の教育課程の内容や編成の手順、実際にどのように実施されているかについて学ぶ。また、特別活動、道徳教育の目標や意義について講義する。実際に学校現場での教育課程の具体的実施事例について提示する。

《授業の到達目標》

教育課程全般についての知識と幼小中高における教育課程の内容を理解し、教員として教育課程を編成、評価、改善していくための基礎を培うことを目標とする。また、教育課程を実施していく上での具体的事項を実際の事例をもとに研究するなかで、学校現場の実情を理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組む姿勢等）（20%）を基本的に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養育課程について(1)	教育課程の目的、方針、評価等や教育課程の意義と今日的課題について学ぶ。
2	教育課程について(2)	教育課程に関する法律、学校教育の目的、目標について理解する。
3	教育課程の歴史の変遷	学習指導要領改訂の歴史並びに改訂の経緯や基本方針について理解する。
4	我が国の教育施策と教育課程	教育施策の具体例の提示から教育行政について知る。
5	教育課程編成の手順	教育課程編成の具体的手順について学び、指導計画の事例の研究をする。
6	小学校教育課程の編成と実施	小学校（幼稚園含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
7	中学校教育課程の編成と実施	中学校（高等学校含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
8	総合的な時間の取り扱い	趣旨、ねらい、計画、具体的な学習活動について学び、学習活動展開上の配慮事項を理解する。
9	道徳教育について	道徳教育の意義、目標と内容について学ぶ。
10	特別活動について	特別活動の意義、目標と内容について学ぶ。
11	教育課程実施上の配慮事項	小学校配慮事項（12項目）、中学校配慮事項（14項目）について理解する。
12	教育課程実施上の具体例(1)	生徒指導の充実（いじめ問題の対応を事例研究する）
13	教育課程実施上の具体例(2)	生徒指導の充実（不登校の現状と課題を理解し、不登校生への対応について事例研究する）
14	教育課程実施上の具体例(3)	気になる児童生徒への対応について学校現場の実情を学ぶ。
15	新学習指導要領のポイント	学習指導要領の改訂の動向やポイントなどについて理解する。

《テキスト》

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 H20.8 文科省 東洋館出版
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 H20.9 文科省 ぎょうせい

《参考図書》

自作した教材や教育課程に関する資料を提供する。「授業ノート」をこちらで用意する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席を確認する。また、この「授業のまとめ」が試験やレポートの資料になるのできちんとファイリングをしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す意志と意欲が、授業のなかで感じられる学生であること。受講態度については大学生として常識を持って臨むものとする。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	KTAL42006
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のためには的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式となるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	KTAL42007
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)、レポート(40%)、その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。